

氏名	難波英樹
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第99号
学位授与の日付	昭和39年12月7日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	肝循環動態に関する研究
論文審査委員	教授 小坂 淳夫    教授 平 木 潔    教授 西 田 勇

### 学 位 論 文 内 容 要 旨

肝疾患時の肝循環動態が BSP 試験にいかに関与しているかを知る目的で、肝血流量と BSP 試験値の経過及び肝組織像を対比検討し、別に肝血流量測定にガラクトース法、BSP 法を行い、その本体を明らかにしようとした。

BSP 試験は閉塞性肝静脈圧と相関係数0.69、有効肝血流量と $-0.34$ 肝内短絡率と0.55とそれぞれ正又は負の相関を示した。又退院時 BSP 試験正常化した症例の予后調査で BSP が再悪化したものは36.6%で、そのうち63.6%が肝循環異常を認めた。即ち BSP 試験は単に肝細胞の変性、壊死のみならず、肝循環動態が関係しており、両者を総合して判定する必要があることを知りえた。

又肝血流量測定に際して BSP 法とガラクトース法を比較すると、正常肝では問題はないが、病的肝には BSP 法はその除去率の問題に注意すべき諸点があり、肝障害時の測定には不適当と思われる。

(岡山医学会雑誌)

## 論文審査の結果の要旨

難波英樹提出の「肝循環動態に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

肝循環動態に関する研究は多数にのぼるが、BSPを用いての肝循環動態に関する研究はそれ自体の詳細な検討が行なわれていないままに放置された形である。そこで第1編ではガラクトース試験により肝循環動態の明かにされている慢性肝炎、肝硬変その他の肝疾患例にBSP試験を施行し、BSP試験値の動揺を精密に検討した結果、BSP試験値には肝細胞のBSP排泄能のほかに、肝循環動態が大きく関与していることを実証した。第2篇ではBSPを用いたBradley法とガラクトースによる中村法とを同時に併用して肝血流量を測定し、BSPを用いての方法の盲点に検討を加えると共に、犬を用いての実験を更に追加して、BSPの肝内除去域を検討した結果、肝障害時にはBSPによる肝循環測定は不適であること、それはBSPの肝細胞の摂取能力は100%でないこと、摂取しても血中に再放出するからであること、BSPの肝内除去には門脈領域、肝動脈領域のいずれもが関与していることなどを明かにした。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。